

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

平成 25 年
全日本柔道
選手権大会

穴井隆将が二度目の天皇杯

現役最後の大会で有終の美を飾る



優勝＝穴井隆将五段（近畿・天理大職）



決勝、穴井隆将五段（左）と
原沢久喜三段の組み手争い

穴井隆将（近畿） 4年ぶり2回目の優勝

平成25年全国日本柔道選手権大会は、4月29日に日本武道館で9200人の観客を集めて開催された。

試合は、決勝で穴井隆将五段（近畿・天理大戦）と、初出場ながら勝ち上がってきた原沢久喜三段（東京・日本大）が対戦。穴井五段が指導2で得た有効ポイントで勝利し、4年ぶり2回目の優勝を果たした。

大会は、全国10地区の予選を勝ち抜いた35名に前回優勝者・準優勝者を加えた37名が出場し、体重無差別、トーナメント戦で覇が争われた。試合は国際柔道連盟試合審判規定で行われ、試合時間は6分間、時間内で勝負がつかない場合は、旗判定により勝敗を決した。

◆第一ブロック

この大会を限りに競技を退くことを表明している穴井隆将（天理大戦）、今年2月のグランプリ・デュッセルドルフ100kg超級優勝の百瀬優（旭化成）、現役高校生の佐藤和哉（静岡学園高）に注目が集まった。

穴井は初戦となる2回戦で佐々木智哉（青森県警）に大内返、3回戦で北見剛（警視庁）に合技（払腰）



開会式、柔道日本一を目指す 37 名の精鋭たち

全日本柔道選手権大会



3 回戦、北見剛に横四方固で勝利



初戦（2 回戦）、佐々木智哉に一本勝

穴井隆将、初戦～準決勝



準決勝、石井竜太を体落で降す



準々決勝、組み勝って百瀬優の技を封じ、優勢勝

ら横四方固（共に技有）で一本勝した。

百瀬は初戦（2回戦）で小林悠輔（筑波大）に2―1で判定勝利、3回戦で佐藤と対戦した。百瀬は佐藤の大内刈、小外刈、大外刈などの攻撃を受けるも時間終了間際に大外刈で技有を奪って勝利した。

◇第二ブロック

昨年準優勝で悔しい思いをした石井竜太（日本中央競馬会）は、初戦となる2回戦で野田嘉明（旭化成）と対戦し、指導で得た技有ポイントで勝利。3回戦では渡辺智斗（パーク24）に浮落を決めて一本勝した。

小林大輔（ALSO K）は、第一ブロックの小林悠輔と兄弟での出場を果たした。兄の大輔は昨年のグランドスラム東京（100kg級）でオール一本勝を収めるなど実力を伸ばしている選手。今大会も2、3回戦を一本勝で勝利するなど、好調ぶりをみせた。

◇第三ブロック

前回頂点に立った加藤博剛（千葉県警）は、初戦（2回戦）で森本翔

太（札幌山の手高教）と対戦。巻込技からの腕挫十字固で勝利した。しかし、3回戦で今井敏博（新潟総合警備保障）に引込返（技有）を時間終了間際にもらって敗退した。

3大会前に優勝の高橋和彦（新日鐵住金）は、3回戦で垣田恭兵（旭化成）に背負投などで攻められ、指導2で敗れた。優勝経験のある二名が、早くも姿を消した。

◇第四ブロック

昨年の全日本学生体重別、講道館杯、今年のベルギー国際、さらには本大会東京地区予選を制して勢いに乗る原沢久喜（日本大）は、初戦となる2回戦で稲垣亮（三重県警）に内股で一本勝。幸先のよいスタートを切った。3回戦では増渕樹（旭化成）を小外刈や内股で攻め、指導2で得た有効ポイントで優勢勝した。

今年で15回目、自らが持つ最多出場記録を更新した棟田康幸（警視庁）は、3回戦で七戸龍（九州電力）と対戦した。棟田は背負投、七戸は大内刈などを狙うも決まらず、勝負は判定までもつれ、2―1で棟田が勝利した。

序盤戦ダイジェスト・コメント



▲2回戦、佐藤対菊川＝佐藤（右）が内股で攻める

▽高校生で全日本出場＝

佐藤和哉選手（静岡学園高）高校生ながら東海地区の予選を2位で通過。本大会への出場を果たした。181cm 110kg。3月の全国高等学校選手権では無差別を制している。

初戦は菊川顕（岡山商科大）に内股、小外刈などで攻め、優勢勝を収めたものの、3回戦で百瀬優（旭化成）に破れた。

「緊張しましたが、楽しめました。百瀬選手との対戦では、持ち味である攻めの柔道を出せませんでした。最後まで一瞬の隙をつかれてしまいました。もっと集中力を持続できるようにになりたいです」

▼3回戦、今井対加藤＝技有となった今井（下）の引込返



▽前回優勝者（3回戦敗退）＝

加藤博剛選手（千葉県警）

「今井選手の出した終了間際の技（引込返）で背中を着いたとは思わなかったのですが、しょうがないです。引込返を狙っているのは分かっていたので、想定外の出来事ではありませんでした。力を出し切り、試合運びも悪く

なかったのですが、一瞬だけ対応しきれませんでした。ここでもう一度優勝して、世界選手権の代表選手になれるようアピールしたかったです。残念ですが、悔しがつても仕方ありませんね」

優勝 穴井 隆将



準々決勝



穴井隆将 ○優勢勝 **百瀬優**
 組み手争いで優位に立つ穴井（写真・左）は、百瀬の技を封じ、内股で攻める。技が出せない百瀬に、指導が3つ重なる。
 穴井は最後まで組み勝って百瀬の攻撃を許さず、指導で得た技有ポイントを守って勝利した。

石井竜太 ○大外刈 小林大輔

2分過ぎ、両者右組の状態から、小林が石井の前足に様子見の小外刈、小内刈を続けざまにとぼす。その後、勢いよく踏み込んで右大内刈で攻め、技有を奪う。仕切り直して3分過ぎ、石井も負けじと小林の奥襟を取り、崩しを後回しにして強引に右大外刈を放つ。倒されまいとする小林に、石井は軸足をケンケンして技を決めやすい位置に回り込み、ついには大きく刈って小林の背中を畳に叩きつけた（写真）。



垣田恭兵 ○浮落 **今井敏博**
 垣田が左、今井が右のケンカ四つ。1分過ぎ、垣田は左小外刈で今井を攻める。今井は右足を引いてこれを躲（かわ）し、右小外刈で反撃する。すると今度は垣田が左足を引いて透（す）かし、浴びせ倒すようにして浮落を決めた（写真）。

原沢久喜 ○優勢勝 **棟田康幸**

初出場の原沢は、序盤から払腰、内股でベテラン棟田を揺さぶる。防戦一方の棟田に指導が重なるが、原沢も攻めきれない。時間となり、原沢が指導3で得た技有ポイントで優勢勝を収めた（写真・右が原沢）。



準決勝

穴井隆将 ○体落 石井竜太

試合開始間もなく、穴井が先に十分な組み手となる。石井も右手で釣り手を取りにいくが、穴井は左襟を取って左体落で攻める（写真）。すると石井はバランスを崩し、つんのめるような姿勢から畳に転がって「一本」。開始14秒の出来事に、会場からは驚きの声と歓声が同時に湧き起こった。



原沢久喜 ○内股 垣田恭兵

初出場同士の戦い。191 cm 120 kgの原沢と174 cm 86 kgの垣田。体格差で勝る原沢は、奥襟を取って内股、大外刈、大内刈で攻めるが、垣田も負けじと背負投を狙う。1分過ぎ、垣田は原沢の内股を透かして技有を奪う。追う立場になった原沢は、垣田の後ろ帯を取って右内股で反撃。垣田はこれに對し、左足を絡めて堪え、返し技を狙う。力勝負となったがこれは原沢に軍配。内股で一本勝を収めた（写真）。

体の大きな相手に先制し、最後まで果敢に攻め続けた垣田。敗れはしたものの、退場時に観客から大きな声援と拍手が送られた。

決勝

穴井隆将 ○優勢勝 原沢久喜

穴井が左、原沢が右のケンカ四つ。序盤は穴井が小外刈、原沢が内股で攻め合う。両者引き手を取れない状況が続く、互いに指導が1つずつ与えられる。残り2分、穴井は内股、大内刈を狙う。決まらなかったものの、ここで原沢に2つ目の指導。

このままでは有効ポイント1つの差で負けてしまう原沢は、引き手が不十分のまま強引に内股で攻めるも潰される。穴井は釣り手を巧みに使って原沢に技を出させず、時間終了。穴井が4年ぶり2回目の天皇杯を手にした。



穴井（左）は釣り手を巧みに使い、終止、原沢の技を封じた

思うがままの柔道で、笑顔の優勝

優勝Ⅱ穴井隆将五段（近畿・天理大職）

昨年のロンドンオリンピックで2回戦敗退と振るわず、その後は強化選手を辞退していた。

大会前のインタビューでは、本大会を限りに競技を退くことを表明。優勝云々の話より先に、「1

秒でも長く畳の上で戦えるようにしたい」と、謙虚な姿勢をみせた。

大会が始まると、いつもとは様子が違った。表情は柔らかく、試合中でも時折笑顔がこぼれた。

「勝たなければならないプレッシャーを抱えることなく、思うがままの柔道が出来ました」



優勝して笑顔を見せる穴井五段

全日本の舞台は9回目。何度出場しても緊張していたが、今回はそれがなかったという。

「このような気持ちは初めてです。畳に上がる素晴らしさをあらためて感じました」

結果を求められ、それに応えようとする日々。置き去りにせざるを得なかった感情を、ようやく取り戻すことが出来た。

優勝が決まった瞬間、4年前は泣き崩れたのに対し、今回は満面の笑みを浮かべ、観客席を見渡した。同じ人物とは思えないほどの態度の差が、これまで抱えてきたものの重さを伝えている。

今後は指導者の道を進む。

「心の底から柔道を楽しんで、純粹な気持ちで戦える選手を育ててみたいです」

今の自分と重ね合わせながら、これから歩む方向をしっかりと見据えている。

選手・関係者コメント

▽準優勝Ⅱ原沢久喜選手（日本大）

「穴井選手との対戦では、組み手の部分で歯が立ちませんでした。組まないと得意な技も掛けられないので、どうしようもありません。ベテラン選手の手さ（うま）さを実感しました」

▽3位Ⅱ

石井竜太選手（日本中央競馬会）

「体落で負けたのは初めてです。畳に叩き付けられたとき、まだまだやるべきことがたくさんあるなと思いました。穴井選手は恐らくこの一瞬を狙っていたでしょう。今回が最後と言っても、実力は相当にあつたと思います。純粹に柔道を楽しんでる様子でしたが、自分の場合はそういう感情は捨てて、ただただ勝ちたいと思っていました。信条である思い切りのいい柔道が出来なかったのが敗因です」

▽3位Ⅱ垣田恭兵選手（旭化成）

81kg級でありながら、無差別の試合で健闘し会場を沸かせた。「いい流れのときは必ず組み勝って

いるので、その点を気にしながら試合に臨みました。無差別でここまで勝利できて、自信になりました」

▽ベスト8Ⅱ百瀬優選手（旭化成）

「大会前まではすごく調子がよかったです。大会前までは優勝を意識しすぎて初戦から体が固くなつてしまいました。穴井選手との対戦では組み負けて、先手を取られました。いつもの柔道が出来なくて残念でした」

▽ベスト8Ⅱ

小林大輔選手（ALSOK）

「石井選手は体が大きいので、最初から攻め続けてペースを掴（つか）もうと考えていました。最後に決められた大外刈は、思い切り入られてしまい、逃げ道がなく、力の差を感じました」

▽ベスト8Ⅱ

今井敏博選手（新潟総合警備保障）

「加藤選手との対戦では、技を返されたらそれが自分の実力と割り切つて、全力で臨みました。準決勝では、もう少し落ち着いて戦っていれば一本が取れたと思います。悔しい一言です」

▽ベスト8Ⅱ棟田康幸選手（警視庁）

「今日は全然いいところがありました。『引退しろ』という野次が聞こえてびつくりしましたが、いろいろな逆境をはねのけて、また頑張りたいと思います」

●井上康生全日本男子監督

「現役を退く選手に他の選手たちが完敗したことに對し、強く責任を感じています。今日の試合を見て、重量級の再建という部分で、あらためて危機感を覚えました。」

原沢選手については、初出場初優勝の難しさを感じさせられました。いつもは残り1、2分から強さを発揮していましたが、決勝では追い上げられませんでした。

七戸選手は重量級の代表選考に立つとうとする立場にもかかわらず、3回戦で負けてしまいました。棟田選手は確かに強いですが、腰が引けた試合をしているようでは話になりません。捻（ひね）り潰（つぶ）してでも勝つてやろうという気持ちが必要です。

重量級は、小・中・高の選手を見て育てるなど、長期的に考えていかなければならないでしょう」

形演武



投の形Ⅱ
取・鉄谷竜三六段、受・仮屋力五段



極の形Ⅱ
取・徳武宗昭五段、受・坪井清仁五段



古式の形Ⅱ
取・高澤雅樹八段、受・林広志七段

皇后盃全日本女子柔道選手権大会

緒方が初の皇后盃



14年ぶりとなる 最重量級以外の優勝



第28回皇后盃全日本女子柔道選手権大会は4月21日、横浜文化体育館（神奈川・横浜市）で開催された。大会には全国各地を代表する36名の選手が出場し、体重無差別のトーナメント戦で女子柔道日本一の座を争った。

決勝では、緒方亜香里（了徳寺学園職）が田知本愛（ALSOK）を破り、初優勝を手にした。3位には、前年度優勝の山部佳苗（ミキハウス）と白石のどか（JRR東日本）が入賞した。

決勝＝緒方（左）対田知本
緒方が大内刈で有効を奪う

試合は国際柔道連盟試合審判規定で行われ、試合時間は6分間、勝敗が決しない場合は延長戦を行わず旗判定となる。

前年度優勝の山部佳苗（ミキハウス）は順当に勝ち上がり、4回戦で烏帽子美久（東海大）に判定勝で準決勝に進む。

第2ブロックでは、昨年のロンドン五輪78kg級代表・緒方亜香里（了徳寺学園職）が、4回戦で上野巴恵（自衛隊体育学校）に指導2による優勢勝で、初めての準決勝進出となる。

第3ブロックからは、8回目の出場となる田知本愛（ALSO K）が、4回戦で穴井さやか（ミキハウス）を出足払、内股の合技で破り、5年ぶりに準決勝進出を決めた。

第4ブロックの4回戦は、白石のどか（J.R.東日本）と佐藤瑠香（コマツ）の白熱した対戦が繰り広げられた。白石が小外刈で有効を取ると、佐藤が指導2で並び、さらに小外刈で有効を奪って逆転。すると白石が再び小外刈を決めて技有を奪い、リードを保ったまま試合終了。白石の初の準決勝進出となった。

準決勝第一試合は山部対緒方。ケンカ四つでなかなか技が出ず、ポイントのないまま試合が進む。開始から3分半、山部が緒方の体落をかわして正面に回り込んだところに緒方が大内刈をかけると、山部は背中から倒れて、一本。昨年女王がここで敗退、緒方が皇后盃に一步近づく。

準決勝第二試合は田知本と白石の対戦。払腰や内股などで積極的に攻める田知本に対し、白石は技が出ず指導がつく。開始から2分半、田知本が白石の奥襟深くをとり、頭が下がったところで支釣込足を掛けて有効を奪う。そのまま崩上四方固で押さえ込み、一本勝ち。

決勝は緒方対田知本で、共に初の決勝進出である。前半、田知本が支釣込足、内股など、積極的な攻撃を見せる。一方の緒方は、奥襟をとって相手を揺さぶるも技が出ず、開始2分半に指導がつく。指導を受けた緒方はこの直後、奥襟と引き手を素早く取って大内刈。田知本は体を捻って凌ごうとするが、有効となる。その後も激しい攻防戦が続いたが、両者新たなポイントのないまま試合終了。緒方が初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ緒方亜香里三段

出場4回目。初出場のときからの夢だった優勝を手にした。

「本物の日本一を決める大会なので、皇后盃が欲しいという気持ちは強くありました」

「初めて出場したときは1回戦が塚田さんで、次の年も塚田さんと当たりました。その次の年は1回戦で田知本さん。ある意味、くじ運が良かったというか（笑）」

今年も、試合で一度も勝ったことがないという上野巴恵と4回戦で、そして前年度優勝の山部佳苗と準決勝で当たる、厳しい組み合わせとなった。しかし、この日の緒方は違った。

「褒められるということがあまりないんですけど、今日はみんなから『いいぞ』と言われて。自分でも切れている、冴えていると感じていました。今日はいっていましたね」

そして、決勝の相手は田知本。

「負けたくないという気持ちが出せたのかなと思います。弱気になれば負けると思いました。最後まで気持ちを切らさずにできたことが良かったんじゃないかと思います」

万全の調子と強い気持ちで初優勝に輝いた緒方だが、この数カ月前まで状況は全く違った。それは昨年のロンドン



ンオリンピック、2回戦で敗退したことから。

「悔しいし、申し訳ないという思いですごく落ち込んで、1カ月くらい柔道ができませんでした。これから自分はどうしたらいいのかと思って。立ち直ったのは、3月に入った頃。薪谷翠コーチに『昔の自分を思い出さない』と言われたんです。それで目を覚ましました。自分のスタイルはこうだ、こうしなきゃいけない、と。周りの支えや応援もあったので、調子が悪い中でも頑張れました。柔道しかない、柔道が好きだという思いで、もっと頑張ろうと気合いを入れました」

このような経験を乗り越えたからこそ手にすることができた皇后盃かもしれない。

最後に、現在の女子柔道界の問題について聞かれると、こう答えた。

「大会を見た人が『女子柔道いいね』と思ってくれたら優勝してよかったと本当に思います」



←準決勝で緒方（上）が山部に大内刈で一本勝

○前年度優勝・第3位＝山部佳苗選手

「今までやってきたことが全然出せなかったことが悔しいです。満足いく試合ではありません。去年優勝して、今年も優勝したいという気持ちがあった中で勝てなかったのは、成長が足りなかったということ。社会人になって環境も変わって、きつくなったときに逃げ出したり、組み手も妥協してしまっていました。自分の弱さと向き合っていませんでした」



↑準決勝で田知本（左）が白石を押さえ込む
←決勝、田知本（奥）も緒方を攻め続けた

○準優勝＝田知本愛選手

「初めての決勝で、もう少しで優勝に手が届くところだったので、すごく悔しいです。自分の組み手にまぐさがないところで技をかけてしまいました。しっかり持ってなかったのが崩れることも多く、そこを反省しています。技もワンパターンにならないように取り組んでいきたいと思います」

◇中学生選手が出場◇

今大会、中学3年生で14歳の三浦裕香理選手（潟上市立天王南中）が出場して注目を集めた。試合では惜しくも初戦敗退。初めて出場した感想を語った。

「挑戦する気持ちで戦いました。良い経験になりました。自分から攻める柔道ができず、得意の内股もかけられませんでした。もう少し力をつけて、これまでに以上に練習していきます。目標は谷本さんのような、技の切れる選手です。オリンピックを目指したいです」

【大会結果】

優勝＝緒方亜香里（了徳寺学園戦）

準優勝＝田知本愛（ALSOK）

第3位＝山部佳苗（ミキハウス）

白石のどか（JRR東日本）



待望の 単行本化

嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世
英国柔道の基礎―武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史
仏蘭西への道
メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使 杉村陽太郎
続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道―独逸通信
東洋への進出
異文化理解の容易な道

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜
嘉納逝き連盟成らず
欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔連会長に就任
世界柔道選手権大会開催
東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道
パリの仇
体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

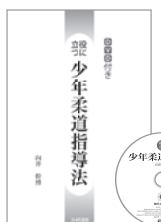


BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

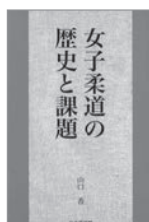


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か —文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）

全日本銃剣道優勝大会

一般第1部 神奈川が優勝

防衛省第1部は1普連(東京)が制す



一般第1部決勝・中堅戦=福原(右)の上胴が決まる

第57回全日本銃剣道優勝大会は、4月21日に日本武道館で開催された。試合は一般第1部(都道府県連盟)、第2部(実業団・クラブ・道場・大学等)、防衛省第1部(陸上指定)、防衛省第2部(海上・航空・第1部以外の陸上)に分かれて行われ、計221チームが参加した。

一般第1部は、神奈川が北海道を退けて2大会ぶり4回目の優勝、第2部はALSOK A(東京)が2連覇を遂げた。防衛省第1部は、1普連(東京)が3大会ぶり2回目の優勝、第2部は日本原(岡山)が10連覇を達成した。

試合はトーナメント方式(一般第2部のみ予選でリーグ戦を採用)、試合時間3分、3本勝負で争われ、時間内に勝負がつかない場合は旗判定により勝敗を決した。

□一般第1部(5人制・25チーム)

前回3位の神奈川は、初戦(2回戦)で石川を4-1、3回戦で山口を3-2で降し、準決勝で大分と対戦した。神奈川は先鋒が判定で、次鋒から副将までは一本勝ちで勝利。4-1で決勝進出を決めた。

一方のブロックでは、前回優勝の北海道が準決勝で香川を4-1で降し、再び決勝の舞台へと進んだ。

▽決勝

神奈川 4-1 北海道

野原 崇 ①- 菊川一輝

鈴木崇之 ①- 山本 卓

福原大祐 ①- 川崎喜一

柴田良平 上①-下 植松正平

鈴木 勇 ①- 村井謙二

先鋒戦、神奈川・野原は北海道・菊川の連続技に苦しめられるも、上胴を決めて先制。一本勝ちした。次鋒戦も神奈川・鈴木が試合終了間際に上胴を決めて勝利した。

勝負のかかる中堅戦、神奈川・福原と北海道・川崎との対戦は、序盤から近間での激しい攻防が続く。1分過ぎ、福原は川崎が放った下胴を間合いを切つて外し、間髪を入れずに上胴を決める。そのまま時間となり、福原が一本勝ち。この時点で神奈川の勝利が決まった。

副将戦は、北海道・植松が下胴で先制するも、神奈川・柴田が上胴を2つ重ねて逆転勝ち。大将戦は北海道・村井が上胴で一本勝ちし、一矢を報いた。

◎神奈川・山田明監督

「選手たちは今日のためによく仕上げてきてくれたと思います。攻めを重視して自分たちのペースに持ち込むのがチームの特徴です。北海道は若い選手が多く、勢いがありました。が、うちの選手も負けじと頑張りました」



一般第1部優勝＝神奈川

□一般第2部(3人制・17チーム)

予選ではA～Dの4グループに分かれてリーグ戦が行われ、各リーグ優勝チームが決勝トーナメントに進んだ。4強には連覇を狙うALSOK K A、ALSOK B (共に東京)、防衛大A (神奈川)、国士館大A (東京) が揃った。

準決勝、ALSOK同士の対戦は、Aが先鋒から大将まで全て二本勝ちを収めて勝利した。

防衛大A対国士館大Aは、先鋒戦で防衛大A・阿比留勇気が上胴を2本決めて勝利するも、中堅戦で国士

館大A・野田峻祐が一本勝ち(上胴)し、勝ち星が並ぶ。大将戦は防衛大A・新井牙輝が上胴で一本勝ち。防衛大Aが決勝に駒を進めた。

▽決勝

ALSOK A 東 3―0 防衛大A (神奈川)
三浦玄徳 判― 阿比留勇気
松浦 備 藤崎慎平
飯嶋 一 新井牙輝

先鋒戦は、時間内に勝負が決まらず、ALSOK A・三浦が判定で勝利した。

中堅戦、ALSOK A・松浦と防衛大A・藤崎の対戦は、開始間も



一般第2部決勝・中堅戦＝
ALSOK A・松浦 (左) 対防衛大A・藤崎



一般第2部優勝＝ALSOK A

なく、松浦が下胴を決める。後がなくなり必死に攻める藤崎だったが、松浦はこれを冷静に木銃で捌く。時間となり、松浦が一本勝ち。この時点でALSOK Aが2連覇を確定。大将戦もALSOK A・飯嶋が下胴で勝利した。

◎ALSOK A中堅・松浦備選手

「練習量の多いメンバーが集まっているので、十分戦えると思っています。会社としては6連覇を達成できたので嬉しいです」

□防衛省第1部(5人制・66チーム)

全日本選手権上位入賞経験のある根本努、松野和樹を擁する1普連(東京)は、初戦(2回戦)で37普連(大阪)、3回戦で6特連(福島)、4回戦で前回優勝の34普連(静岡)と対戦し、全て5―0で退けた。さらに、準決勝では12普連(鹿児島)を3―2の僅差で降し、勝ち上がった。四強は、1普連、50普連(高知)、18普連(北海道)、14普連(石川)。

準決勝、1普連対50普連は、5―0で1普連の勝利。次鋒戦での一本勝ち以外は全て判定勝ちという試合巧者ぶりをみせた。18普連と14普連

の対戦は、中堅戦が終わった段階で18普連が2―1とリード。迎えた副将戦では18普連が判定で勝利し、決勝進出を決めた。



防衛省第1部決勝

▲先鋒戦Ⅱ1普連・江良(左)が下胴で先制
▲次鋒戦Ⅱ18普連・秋元(右)が下胴で星を戻す



▽決勝

1普連(東京) 4―1 18普連(北海道)

江良将人 下― 安西啓太

川村貴嗣 下― 秋元伸幸

山崎泰弘 下― 大榎達宏

根本 努 上― 澤田圭吾

松野和樹 下― 板垣翔太

先鋒戦は、1普連・江良が下胴を決めるなどして一本勝ち。次鋒戦は18普連・秋元が星を取り返し、五分に持ち込む。中堅戦は、終了間際に近間の攻防から1普連・山崎が下胴を決めて一本勝ちを収めた。

勝負のかかった副将戦、1普連・



防衛省第1部決勝・副将戦＝

1普連・根本(左)が2本目となる上胴を決めて勝負あり



防衛省第2部決勝・次鋒戦＝

日本原・植田(左)対大村・川原

根本は開始早々に18普連・澤田から上胴を奪う。さらに接近戦からの離れ際に再び上胴を決めて、二本勝ち。この時点で1普連の優勝が決定した。大將戦は、1普連・松野が下胴で勝利した。

◎1普連・嶋田洋介監督

「各選手がそれぞれ初戦から力を出し切れたのが大きかったと思います。特にメンバーで一番若い山崎が中堅というポジションでよく頑張ってくれました。連覇は優勝チームしか挑戦できません。来年も狙います」

◎1普連副将・根本努選手

「決勝で澤田選手から上胴で先制した後、様子をみながら試合を進め

ようと思いました。そんなとき、相手が勝負に来てくれたので、もう一本取ることが出来ました」

◎1普連中堅・山崎泰弘選手

「チームで一番若い私(28歳)が、中堅という要を任せられ、正直なところ『自分でいいのかな』と思っていたら臨みました。今日は全体的に自分の試合が出来たのでよかったです」

□防衛省第2部(5人制・113チーム)

ベスト4には9連覇中の日本原(岡山)、佐渡(新潟)、昨年準優勝の大村(長崎)、対馬(長崎)が揃った。日本原は5―0で佐渡を、大村は3―2で対馬を降し、それぞれ決勝に進んだ。

▽決勝

日本原(岡山) 4―1 大村(長崎)

上田啓二 判― 黒岩弘幸

植田晋悟 判ノ―下 川原純一郎

藤原考貴 下上 森田年彦

徳田裕人 判― 浦川和幸

高島武志 判― 中島啓介

前回と同じ顔合わせ。先鋒戦は判定で日本原・上田が勝利。次鋒戦は大村・川原が下胴で先制するも、日本原・植田が終了間際にノドで取り

好評発売中

武道の礼法

小笠原 清忠

(弓馬術礼法小笠原教場
三十一世宗家) 著

相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が
直々に指南する、武道関係者必読の一書。



四六判・上製・278頁

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>



防衛省第1部優勝＝1 普連（東京）



防衛省第2部優勝＝日本原（岡山）

【大会結果】

▽一般第1部①神奈川②北海道③大分、香川

▽一般第2部①ALSO K A（東京）
②防衛大A（神奈川）③国士館大A（東京）、ALSO K B（東京）

▽防衛省第1部①1普連（東京）
②18普連（北海道）③14普連（石川、50普連（高知）

▽防衛省第2部①日本原（岡山）
②大村（長崎）③対馬（長崎）、佐渡（新潟）

心技体 人を育てる総合誌

月刊 武道



返す。判定となり、植田が勝利した。

中堅戦は大村・森田が残り30秒で下
胴、上胴を立て続けに決めて二本勝
ち。大村が一矢を報いる。副将戦は

判定にもつれ、日本原・徳田が勝利。
ここで日本原の優勝が決まる。大将

戦も日本原・高島が判定で勝利し、
10連覇を果たした。

◎日本原・南條和志監督
「10連覇のプレッシャーは、かなり

重かったです。ほっとしました」

◎大村・馬場新一監督
有効となった突きの数では、大村

が日本原を上回っていた。試合後、
「力不足でした。相手が強かっただ

けです。ただそれだけです」と悔し
涙を流した。

日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

(B5判・236頁)



月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一／阿達美恵子／山巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(馬術)

日本武道館の歴史



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



大先輩に聞く

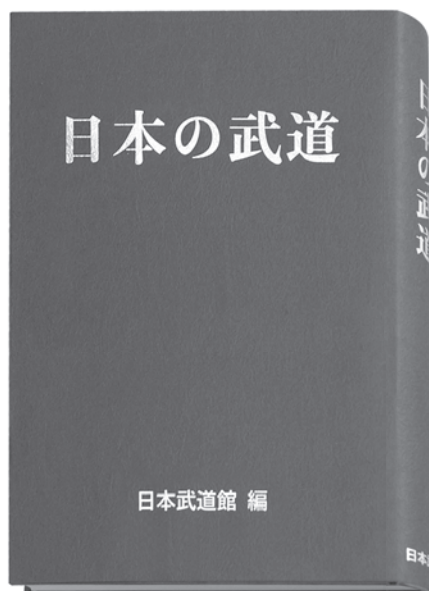
月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などさまざまな銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

初の国際女子相撲大会を開催

第1回国際女子相撲選抜堺大会



無差別級決勝＝兼平（左）対今

第1回国際女子相撲選抜堺大会（主催Ⅱ日本女子相撲連盟）が4月21日、堺市大浜公園相撲場で開かれた。本大会は、女子相撲の普及発展を目指すために創設された大会で、タイ、香港、台湾の3カ国から選手を招いて国際大会として開かれた。大会は3人制の団体戦と個人戦で行われ、個人戦は体重別の軽量・中量・重量の3階級と体重無差別の4種目が行われた。日本勢は全種目で優勝を果たした。

■個人戦

▽軽量級（60kg未満・34名出場）

準決勝進出は松浦みな美（静岡）、黒田彩海（佐賀）、松尾清香（熊本）、野崎舞夏星（静岡）の4名。

第1試合は松浦対黒田。松浦が黒田の左足をとって倒し、松浦の勝ち。

第2試合は野崎対松尾。野崎は立合で右下手をとると、右足をかけな



大会風景



会場となった堺市大浜公園相撲場



軽量級決勝＝野崎（手前）対松浦

がらすくい投げて勝った。

決勝は野崎対松浦の静岡同士の顔合わせ。互いに低い立合でぶつかり、まわしがとれない。野崎は下に潜り込んだ松浦の上半身に体重を乗せると、それを嫌がって松浦が動いた機をとらえてひねり、優勝を決めた。

●優勝Ⅱ野崎舞夏星選手（静岡）

「うれしいです。決勝は一緒に稽古をすることもある松浦さんが相手でしたが、全力で戦いました。次の大会も優勝したいです」

▽中量級（60 kg 以上 75 kg 未満・11名出場）

台湾から出場したチェン・ジャーフアンは、初戦の準々決勝で水沼ひかる（愛媛）をはたき込みで降すと、準決勝で兼平志織（青森）と対戦。チェンは兼平を強烈に突くが、兼平はチェンのまわしをがっちり掴んで離れない。兼平が寄るとチェンの抵抗むなしく足が土俵を割り、兼平が決勝進出を決めた。

決勝は兼平対山中未久（京都）。

立合、山中は右下手を差すと、さすがはたき込むが、兼平はこれをな



中量級決勝＝兼平（右）対山中

んとかこらえる。この時、山中の体勢が崩れているのを見逃さなかった兼平が山中を押し倒して、優勝を手中に収めた。

●優勝Ⅱ兼平志織選手（青森）

「とてもうれしいです。小学生からずっと相撲を続けてきて、はじめてのタイトルです。相撲は一瞬で勝負が決まってしまうですが、その一瞬のためにずっと稽古をしています」

▽重量級（75 kg 以上・17名出場）

出場選手中最重量のチェン・シュ



重量級決勝＝谷内（左）対鳥井本

ーヨウ（台湾・135 kg）は初戦の2回戦を勝って、準々決勝で鳥井本聖奈（埼玉）と対戦したが、鳥井本に寄り切られて敗退した。

その鳥井本は準決勝を勝って、決勝で谷内明日実（東京）と対戦。右四つに組んで鳥井本が右上手投げで谷内の体を傾けるが決まらない。窮地を凌いだ谷内は頭を鳥井本の胸に押つけて寄り、そのまま寄り切った。

●優勝Ⅱ谷内明日実選手（東京）

「個人戦で優勝できてうれしいですが、団体戦で負けてしまったので、悔しい思いが強いです。5月の全日本で頑張ります」

▽無差別級（42名出場）

体重無差別で行われたが、中量・軽量の選手が大活躍した。準決勝では中量級の覇者・兼平と軽量級の覇者・野崎が対戦した。兼平は立合で



無差別級準決勝＝中量級優勝の兼平（右）が軽量級優勝の野崎を破る

野崎を突き落として決勝へ。

相手は青森県のチームメイトで、準々決勝で重量級優勝の谷内を破った今日和（青森）。兼平は左四つの体勢から一気に寄ると、最後は左上手投げで今を破り、中量級に続いて、本大会2つ目のタイトルを獲得した。

●優勝Ⅱ兼平志織選手（青森）

「驚きました。中量級で勝っていたので、楽に臨めました。その分足が

よく動いたのだと思います。将来は保安系の仕事がしたいですね」

■団体戦（17チーム出場）

出場資格に制限のないオープン大会のため、タイ、台湾のほか、日本勢15チームが出場した。

タイは初戦の2回戦で佐賀県に敗退。台湾は初戦で富山県高校チームを破るも2回戦で青森県に2―1で敗れた。その青森県は続く準々決勝で九州情報大を下し、ベスト4進出を決めた。

その他、ベスト4に勝ち上がったのは、朝日大、日本大、全静岡の各チーム。

◎準決勝

日本大 2―1 朝日大

日本大先鋒の上田幸佳は立合の一押しで朝日大・野上麻奈を土俵の外へ。続く中堅戦は日本大の谷内が体格を活かしてあっさりと押し出した。最後は朝日大の大将・武内萌実が意地を見せたが、2―1で日本大が決勝進出を決めた。

青森県 3―0 全静岡

全静岡は中堅の松浦麻乃が個人戦重量級の試合で負傷して棄権。軽量



団体戦決勝・大将戦＝青森県・鳥井本が日本大・岩本を破って優勝を決めた

級優勝の野崎と同じく準優勝の松浦（み）が土俵に上がったが、なすすべなく敗退し、3―0で青森県が決勝へ勝ち進んだ。

◎決勝

青森県 2―1 日本大

青森県先鋒の兼平は、日本大・上

田の押しにこらえきれず土俵際に押し込まれて倒された。

中堅戦、青森県の今は日本大の谷内を相手に防戦一方。土俵際まで押されたが、俵に足をかけて、土俵を回り込みながら逆転のはたき込みで勝利をもぎとった。



団体戦優勝＝青森県

青森県の大將、鳥井本は立合で諸差しとなり、土俵際に詰める。日本大の岩本も渾身（みじん）の上手投げを見せるが、そのまま倒れ込んで軍配は鳥井本。青森県が記念すべき第1回大会の優勝を決めた。

●優勝Ⅱ鳥井本監督（青森）

「選手たちは個人戦でいい流れを作って、そのまま団体戦に臨んだという感じですね。決勝の相手の日本大は強いので、一番の山場でした。中堅の今が踏ん張ってくれました。次の大会も優勝したいですね」

【大会結果】

■団体戦Ⅱ①青森県②日本大③全静岡、朝日大

■個人戦

▽轻量級Ⅱ①野崎舞夏星（静岡）②

松浦みな美（静岡）③松尾清香（熊

本）、黒田彩海（佐賀）

▽中量級Ⅱ①兼平志織（青森）②山中未久（京都）③チェン・ジャー

ファン（台湾）、岩本幸奈（東京）

▽重量級Ⅱ①谷内明日実（東京）②

鳥井本聖奈（埼玉）③稲葉映美（京

都）、上田幸佳（東京）

▽無差別級Ⅱ①兼平志織（青森）②

今日和（青森）③野崎舞夏星（静

岡）、稲葉映美（京都）



個人戦優勝＝左から野崎（轻量級）、兼平（中量級・無差別級）、谷内（重量級）

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などなごた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

(B5判・上製・箱入・526頁)

《目次》

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」英訳文）（ごも武道憲章）
カラー口絵（日本武道館、9武道・10日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野寛明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え…………… 村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力…………… 大保木輝雄 埼玉大学教授

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学…………… ①国際武道大学 ②国士館大学
③東海大学 ④日本体育大学 ⑤鹿屋体育大学 ⑥中京大学
⑦天理大学 ⑧筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十歩の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかなの町のわんぱく力士
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る！ 安井和男 先輩部長が育てる侍力士



男子組手決勝＝帝京・石塚（左）の上段蹴りが決まる

第41回 関東学生空手道選手権大会

男子組手、石塚将也（帝京）が初優勝

■組手
組手競技は、6ポイント（男子準々決勝以降は8ポイント）先取、トーナメント方式で競われた。

▽男子（303名出場）
準決勝、石塚将也（帝京）対米山英弥（国士舘）。終始石塚ベースの試合運びとなり、8―2で石塚が勝利し、決勝進出を決めた。また、須

第41回関東学生空手道選手権大会は、5月5日、日本武道館で開催された。

男子組手は石塚将也（帝京）が初優勝、女子組手は植草歩（帝京）が2連覇を果たした。

男子形は在本幸司（帝京）、女子形は仲村恵（山梨学院）が共に初優勝を飾った。



来賓挨拶
全日本空手道連盟会長 笹川 堯

田芳広(国土館)対遠山将平(帝京)は、8―6の接戦を制した須田が決勝に駒を進めた。

決勝、石塚対須田。序盤から中盤にかけては双方の攻め合いが続き、ポイントを取り合う接戦となった。終盤は、主審の始めの声と同時にお互いが技を出し合う激しい戦いとなる。途中、須田の上段突きが、石塚の顎に当たり、試合は一時中断。ドクターの診断後、試合は再開され、両者一步も譲らず7―7の同点が続いた。試合終了間際、石塚の上段蹴りが決まり、8―7で石塚が初優勝を手にした。

◎優勝Ⅱ石塚将也選手(帝京)
「課題が山積みです。もっと強くな



女子組手決勝=植草(左)対白根

らなくてはいけませんね」と冷静に試合を振り返っていた。

▽女子(124名出場)

準決勝、植草歩(帝京)対畠山穂風(国土館)は5―0で植草が、白根実香(大正)対月井隼南(拓殖)は4―1で白根が、勝利した。

決勝、植草対白根。連覇を狙う植草は、上段突きで先制。白根も攻めるが、ポイントにはつながらず、1ポイント差のまま試合は終了し、植草が2年連続の優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ植草歩選手(帝京)

「2連覇できて本当によかったです。全日本も連覇できるよう頑張ります。笑顔で喜びと抱負を語った。



男子形優勝=在本幸司(ガンカク)

■形

形競技は、得点制の予選で決勝トーナメントに進む8名を選抜。決勝トーナメントは旗判定で勝負を決した。

▽男子(62名出場)

準決勝は前回3位の在本幸司対林田至史(共に帝京)と、前回3位の中嶋俊文(慶應義塾)対富田溪介(山梨学院)の勝負となった。

決勝に進んだのは在本と中嶋。まず在本がガンカクを、続いて中嶋がコウソウケンシホを演武。判定は3―2で在本の初優勝となった。

▽女子(49名出場)

準決勝、前回3位の遠藤千夏(帝



女子形優勝=仲村恵(アーナン)

京)が津田温子(青山学院)を、前回3位の仲村恵(山梨学院)が同大の本郷毬奈を、それぞれ破って決勝に進んだ。

決勝、遠藤対仲村。遠藤はウンスーを、仲村はアーナンを演武した。判定は4―1で仲村が初優勝を手にした。

【大会結果】

◎男子組手

優勝Ⅱ石塚将也(帝京)

準優勝Ⅱ須田芳広(国土館)

第三位Ⅱ米山英弥(国土館)

遠山将平(帝京)

◎女子組手

優勝Ⅱ植草歩(帝京)

準優勝Ⅱ白根実香(大正)

第三位Ⅱ畠山穂風(国土館)

月井隼南(拓殖)

◎男子形

優勝Ⅱ在本幸司(帝京)

準優勝Ⅱ中嶋俊文(慶應義塾)

第三位Ⅱ林田至史(帝京)

富田溪介(山梨学院)

◎女子形

優勝Ⅱ仲村恵(山梨学院)

準優勝Ⅱ遠藤千夏(帝京)

第三位Ⅱ本郷毬奈(山梨学院)

津田温子(青山学院)

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

金城 裕

日本武道館

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

(四六判・上製・372頁)

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授 菅野 純 著



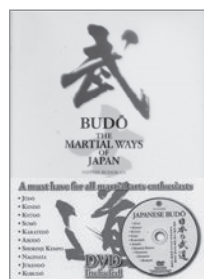
臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

(四六判・上製・410頁)

BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊「武道」記者 田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。
定期購読、詳しい内容については、上記ロゴを
クリックしてください。